

関電、100時間研修開始

役員、法令順守を学ぶ

関西電力は15日、現役員が計100時間をかけてコンプライアンス（法令や社会規範の順守）やガバナンス（企業統治）を学ぶ新たな研修を始めた。元役員らによる金品受領や役員報酬を補填していた問題を受けた再発防止策の一環。

研修は年に4回実施する計画。課題図書を読む事前準備や当日の講義と討論、2千字程度の事後リポートの作成など各回に25時間をかける。計100時間で、

年間の総勤務見込み時間の5%に相当するという。

この日の研修では、森本孝社長ら関電の役員と関西電力送配電の役員計22人が参加。研修全体のコーディネーターを務めるコンプライアンス委員の中谷常二・近畿大学教授が講師として、倫理学の観点から役員が守るべき規範意識などを説明した。研修後、中谷委員は「倫理がまずベースにあつて、法が成り立っている。法を守りさえすればいいの

ではなく、倫理という土合「ない」と話した。をまず完成させないといけ

(橋本拓樹)

日本経済新聞 19 関電 経済

役員コンプラ研修、関電が公開

関西電力は15日、役員を対象としたコンプライアンス研修を報道陣に公開した。役員の間稼働時間の5%にあたる100時間を研修に費やし、昨年9月に発覚した金品受領問題で問題視された関電のガバナンス改善を図る。同日の研修には森本孝社長を含む22人が出席した。

2. 12. 16

同社のコンプライアンス委員も務める近畿大学の中谷常二教授は研修に先立ち、関電の役員に「質量ともに負担が大きい、100時間の研修を通じ企業風土は必ず改善すると思つてほしい」。倫理学などに関する講義を行った。講義後は役員に対し2000字以上のリポートを課すなど研修内容の定着を図る。